
1


2


3


4


5

1_ 牛渕の神輿が浮嶋神社に宮入り /2_ 岡八幡神社から宮出し、長い階段を下る西岡の神輿 /3_ 上林のささゆり団地で獅子舞を披露 /4_ 練習の成果を披露して溢れる笑顔 /5_ さくらの湯で北方と南方の神輿が鉢合わせ /6_ 三奈良神社で下林と見奈良の神輿が鉢合わせ /7_ 徳威三嶋宮で北野田と南野田の神輿が鉢合わせ

秋祭り

10 月 11 日㊊、夜明け前から太鼓の音が鳴り響き、まちの至るところから威勢の良い声が聞こえた。「祭りで地域を盛り上げたい」「伝統を繋いでいきたい」。それぞれの思いを胸に、活気と笑顔で溢れた 1 日を振り返る。


6


7


8


9


10


11


12


13

8_大人も子どもも笑顔が溢れる南方の櫻神輿会の皆さん /9~12_神輿と一緒にはいチーズ /13_田窪の三番叟（さんばそう）。獅子の背に乗って登場 /14_新村の子ども神輿と写真を撮る子どもたち /15_観客に近づいて福をもたらす見奈良の獅子舞 /16_市指定無形民俗文化財の牛渕のねり行事 /17_田窪団地集会所で神楽を舞う /18_たすきを掛けて子ども神輿を取り仕切る /19_夕暮れ時も力を振り絞る志津川中央会の皆さん /20_長年樋口の祭りに携わった和田忍勝（としかつ）さん（写真中央）と撮影


14


15


16


17



18


19


20

南野田で72年振りに神輿を新調。

南野田の神輿は、昭和29年に作られてから、雨風や鉢合わせで傷む度に修繕を重ね、大切に受け継がれてきた。

新調の話が持ち上がったのは12年前のこと。子どもの頃から祭りに携わってきた宮崎里志（さとし）さんが中心となり、地区全体で資金の積み立てや寄附を募るなど協力して準備を続け、今年9月、ついに完成した。

新調した神輿には、宮崎さんが調べて取り入れた、さまざまな工夫が施されている。担ぎ手が持つ柄は、以前より長くすることで大人数で担ぐことができるようになった。また、本体の下に土台部分を作り、神輿が直接地面に触れないようにこだわった。さらに、鉢合わせの際に傷みやすい各面の鳥居は、磁石で簡単に取り外せる構造にし、壊れやすい細かな部品を減らすことで、修繕の手間を抑えられるようにした。

新しくなったのは、神輿だけではない。獅子舞の際に地面に敷くシート、法被及びのぼりも新調した。この世代で一新することで、再び地域の人たちが集い、祭りを盛り上げるきっかけにしたい。そんな熱い思いが込められている。

秋祭り当日の朝、北野田との鉢合わせを行った後、担ぎ手たちは、夕方まで各所を練り歩いた。神輿を担いだ平岡鼓太朗（こたろう）さんは、「以前の神輿よりも担ぎやすく、疲れの感じ方が全然違う。これから何年もかけて、神輿と思い出を重ねながら、地域の祭りを支えていきたい」と思いを語った。

南野田獅子舞保存会会長の大川摂子（せつこ）さんは、「神輿を新調したことで多くの人が集まり、楽しい祭りになった」と笑顔を見せた。

12年越しの神輿の新調と祭りを終えた宮崎さんは、「地域の人たちから『ようやったのう』と声を掛けてもらい達成感を感じ、最高でした」と振り返る。

また、今年から南野田では、各中継所の出発前に子どもたちを神輿に乗せて差し上げを行った。年配の人からは、女の子を神輿に乗せることに驚く声もあったが、宮崎さんが「今年から変更したんよ」と説明すると、反対する人はいなかったという。「新しいことも、柔軟に受け入れてくれる南野田の皆さんと、これからも祭りを盛り上げていきたい」と話す。

受け継いできた伝統を大切にしながら、時代に合わせて変えていく。新しい神輿とともに、南野田の祭りは、次の世代へ続いていく。

「神輿をきっかけに地域に新しい風を吹かせたい」
その思いを胸に迎えた、秋祭り当日。


神輿を地域の皆さんにお披露目



神輿の上でくす玉を割る宮崎さん


新しいシート、法被及びのぼり


新調した神輿と平岡さん


北野田（左）の神輿と合わせて宮入り



名物の夫婦獅子。黒髪の雄獅子が舞うのはここだけ。

上村の獅子舞と言えば、黒髪の雄獅子と白髪の雌獅子が舞う「夫婦獅子」。上村獅子舞保存会会長の高須賀聖泰（まさひろ）さんは、「2体で舞う獅子舞は市内の他の地域にもありますが、黒髪の雄獅子が舞うのは上村だけで、この演目が祭りの一番の見せ場です」と話す。力強くも優しい舞で、夫婦の獅子がお互いに見つめ合い、敵がいないことや身の安全を確かめ合う仲睦まじい演技も見られる。

保存会は、大人約20人と小学生17人で日々練習を重ねてきた。秋祭りでは演舞中に「頑張れよ！」「あとちょっとや！」と声を掛け合い、獅子舞を見に来た地域の人たちは拍手をしながら笑顔で演舞を見守り、温かい空気に包まれる。高須賀さんは、「子どもも大人も、みんな練習以上のものを本番に出してくれて、言葉に表せないくらい感動しています」と満面の笑顔を見せ、力強い舞を披露した仲間たちを讃える。獅子のように信じ合い、気遣い合いながら、祭りを通して地域の絆を深めていく。


仲間を讃える高須賀さん


夫婦獅子で新神楽を舞い、達成感溢れる笑顔

人は少ないけど、この日だけでもまちを盛り上げたい。

則之内の氏之宮三嶋神社から宮出しされた神輿は、東谷小学校や地域の集会所、地元企業などを練り歩く。神輿を指揮する大頭取の高須賀純（じゅん）さん（写真左 左上）は、「子どもの頃からこの地域の祭りに参加してきました。過疎化が進んでいますが、この日だけでも地域を盛り上げていけたら」と笑顔を見せる。

神輿とともに地域を練り歩き、獅子舞を披露するのは、永野獅子舞保存会。会長の近藤陵二（りょうじ）さんは、「私自身は中学生の頃、父に連れられて、獅子と踊る『子役』を務めたのが始まりです。今は10人ほどが保存会に所属しています。中には昔、子役をしていた人が、市外に住みながらも、祭りの時期には子どもを子役として連れてきてくれるような繋がりもあります」と話す。幼い頃に感じた祭りの楽しさや地域の人たちと過ごした思い出は、大人になっても、そしてふるさとを離れても心に残り続ける。過疎化が進む中でも、まちを愛する一人ひとりの思いが、この地域の祭りを支えている。


秋祭りを盛り上げた則之内の皆さん






保存会会長 近藤さん

